

---

# 働くおぢさん - 自転車整理人

あると

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

働くおぢさん - 自転車整理人

### 【コード】

N0787Q

### 【作者名】

あると

### 【あらすじ】

働くおぢさんシリーズ第2弾。

駅前の駐輪場での出来事。

（前書き）

働くおぢさんシリーズ第2弾。

職業にスポットを当ててみたお話。

【自転車整理人】

何年か前までは、雑然としていた駅前も、最近はすっかり小綺麗になつた。

無法地帯だつた駐輪場が撤去され、かわりに地下駐輪場が作られたのだ。通行の邪魔にもなっていたし、何よりも見た目がよろしくなかつた。駐輪場が見えなくなつただけで、街の雰囲気はずいぶんとすっきりとした。

駅前には、おしゃれなカフェや有名なラーメン屋がこぞつて店を開き、若い人たちが多く訪れるようにもなつた。雑誌にも、何度か取り上げられていた。

「はい、1000円ね」

竹岡は自転車の前輪をレールに沿わせて奥に入れた。ボタンを押すと、地下駐車場に送られる仕組みだ。昔は、苦勞して並べていたが、今では全部機械がやってくれる。楽なものだつた。

ただ、なんとなく物足りない気もしていた。ごちゃごちゃした自転車を綺麗に並べ替えていた日々が懐かしい。

それに、自転車が吸い込まれていくところは、あまり気持ちがよいものではなかつた。自分の知らないどこかに引き込まれてしまいそうだつた。だから、最後まで見ないようにしている。

竹岡はお客さんの途絶えた合間にため息をついた。

仕事は楽だつた。楽すぎた。

本来なら、自分の仕事は必要ないものなのだ。以前の駐輪場で、真面目に働いていたために、自治体の知人のついでで雇われた。仕事があるだけよいのだろうが、機械の世話をしているようでも落ち着かない。

そういえば、と思う。

以前の駐輪場では、自分ともうひとりが自転車を並べていた。あの頃の同僚だつた武藤はどうしているだろうか。

やめさせられたと、誰かが言っていた気がする。高級な自転車を盗んだとか、置き忘れていた荷物を懐に入れたとも聞いていた。

「はい、どうぞ」

自転車を預かり、番号の振られたタグを渡した。月極でないお客さんには、そのタグと引き替えに自転車を出す仕組みだった。

198番だった。200台まで収納できる駐輪場である。あと少しで満車だ。今まで満車になったことはなかった。どうせなら、あと2台、入れてしまいたい。整理整頓が好きな竹岡は、きっちりとした区切りを好んでいた。

思ったそばから1台来た。

「ん？」

自転車を入れる際、何か聞こえた気がした。

気のせいだろう。最近、耳が遠くなったと、娘によく言われているくらいなのだ。

「おじさん、今何か聞こえなかった？」

タグを受け取った女性が首をかしげた。

「そうかい？ 気のせいじゃないのかな」

「そう？」

女性は何度か振り返りながらも、駅へ向かっていった。

「お」

記録達成だ。若い男性が、高級そうな自転車を引いてきた。

「ついているね」

「え？ 何がです？」

「いや、なにね。君でちょうど200台目なんだ。はじめての満車だよ」

「そうなんですか。おめでとございます」

「タダでいいよ。おじさんのおごりだ」

竹岡はタグを渡して、満面の笑みを浮かべた。

「本当ッスか。おじさん、ありがとう」

「いいって、いいって」

竹岡は自転車を収納するボタンを押して、若者を見送った。  
閉じたドアから悲鳴があがったが、竹岡の耳には「何も」届かなか  
った。

隙間のない地下駐輪場で、ひとりの男が無惨な姿になったことなど、  
誰も知る由がなかった。

数時間後、200番のタグを受け取った竹岡が、変わり果てた同僚  
の姿を目の当たりした。彼が何故そこにいたか、自治体の担当者も  
知らないと言う。

竹岡は仏に手を合わせて頭を下げた。  
真面目に働くことが一番だと思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0787q/>

---

働くおぢさん - 自転車整理人

2011年1月16日08時45分発行